澪標

Miotsukushi

1999年6月15日発行

No. 73

MIOTSUKUSHI

大阪府青年国際交流機構
会長　松本　仁孝

今号の紙面

世界船レポート
平成10年度事業報告会&
平成11年度事業説明会
平成11年度総会
平成11年度参加者選考会
リレーメッセージ
INFORMATION

今回は第１１回参加青年のみなさんに
テーマ毎にレポートを書いていただきました。

世界青年の船におけるクラブ活動及びホリデーについて

山本　恭史

第11回世界青年の船においては、クラブ活動が非常に盛んであった。クラブ活動は正規のプログラムに組み込まれており、週に何度か各々1時間30分程度設けられていた。また、正規の時間以外にも、ホリデーにおいて積極的に活動するクラブも多数あった。

クラブの種類はバラエティに富んでおり、多種多様であるがゆえに活動内容も各々異なる。毎日空き時間を利用して行うクラブもあれば、数回の活動のみというクラブもあった。しかし、各参加青年が自分に適したクラブを選択し、楽しんでいた。

それでは、私の独断により、多数の人々が頻繁に活動を行い、かつ印象に残ったクラブを列挙してみたい。

柔道、空手、和太鼓、ダンス、ゴスペル、Celebrating Diversity（討論会）、バスケットボール、サッカー、染め物、茶道、書道といったところが人気であった。でも全部で40位のクラブが存在していたと思う。

後、忘れてならないのが「ACT」（Activity　Coordination Team）の存在であり、船内ビデオの作成から新聞の発行、イベントの立ち上げ、サポート等、微に入り細に入り力になってくれた。

次に、ホリデーについて述べてみたい。文字通り、全くの休日であり何をしようが自由である。しかし、ホリデーに自主活動を行うクラブが少なくないため、クラブ活動に励むのが一般的であった。さらに、ホリデーを利用することにより、クラブを掛け持ちできるメリットもあった。かくいう私も様々なクラブを掛け持ちした。

クラブ以外にも、デッキで日焼けする人、読書する人、プールで泳ぐ人、フィットネスルームでトレーニングする人等様々であった。もちろん、惰眠をむさぼる人もいた。私の経験上、クラブを通じて海外青年と友人になることが多かったので、ホリデーにはいろんなクラブに顔を出すのが有益であると思われる。

以上が、船内におけるクラブ活動及びホリデーの要旨である。

Islander　アイランダー・島の人々

（ソロモン諸島、トンガ王国）

清水　玲子

60日間の船の生活が終わって、はや2ヶ月。帰国後、引越をした私は、あの日々が何だったのかまだ整理する余裕を持てないでいる。800枚ほど撮った写真も、ダンボールにつっこんだまま。今は新しい生活を見ようとしている。逆に言えば、意識的にそうせねばならないほど、「濃い」60日であり、「濃い」仲間との出会いであった、ということかもしれない。

13カ国の青年が集まると、様々なことが起こる。中でも私の心をとらえたのは、"islander"（アイランダー）と呼ばれる、ソロモン、トンガからの青年たちだった。まだ船に乗って2、3日目、すでに陸は見えず、英語の会話のスピードに怖気づいていた私の耳に聴こえてきた、ギターとコーラス。彼らはいつも歌っていた。何を歌っているのかわからないけれど、一緒にいると心地よかった。会話しなくても、受け入れてくれるものを感じた。その出会いをきっかけに、私と彼らは近づいていった。

そして訪れたソロモン。「日本のお金で出来た道路だ、病院だ」と説明してくれる人々の親日的な態度に戸惑った。目に痛いほどの熱帯の緑と、たくさんの裸足の子どもたちの笑顔と、戦争の記憶を示すモニュメント。参加青年の家でごちそうになった、お昼のおいしかったこと。おいしいという感覚を共有できることの嬉しさ。海外青年協力隊の女性が、私たちの獅子舞を見て、「すごいね、子ども生まれるんだね。感動しちゃったよ」と言ってくれたとき、なんだかじんとした。あなたの存在こそ、私達を感動させた。

トンガは、大きくて平らな島。人々も大きく、おおらかだった。子どもや母親が水浴びがてら遊んでいるビーチで泳いだ。大きな子は岩場から飛び込んで度胸試し（?）、小さい子は波打ち際で小魚をつかまえてそのままつるりと食べていた。30人以上の子ども達に囲まれて、自分達も子どもにかえった気分だった。帰りはお互いに見えなくなるまで手を振った。

町の書店で、英語で書かれたトンガ語のテキストを手に入れた。出航後、私のトンガ語修行が始まった。お返しに日本語を教えながら。「イオ（イエス）」「イカイ（ノー）」「フィエモヘア（眠いよ）」「フェフェハケ?（元気?）」「サイペマロ（元気よ）」など、ちょっとした会話で、「Reiko,Tongan girl!」と大喝采。調子にのった私は、持参のウクレレを武器に、トンガの歌もずいぶん習った。トンガン・ダンスも。別れはずいぶんつらかった。　最後の2、3日、つらいという気持ちも、お互いに一緒にいるだけで、じんじん響いてきた。最後にも言葉はいらず、必要なのはハグ（ぎゅっと抱きしめること）と、相手への想いだけだった。

船に乗るまで、私の地球儀は日本と、少しのアジアとヨーロッパ・北アメリカが肥大したゆがんだものだった。それは、経済力や政治力の大きさから言えば現実かもしれない。しかし、60日の日々をへて、ラテンアメリカが、そして南太平洋の島々やオセアニアが現実感を持って姿を現してきた。この経験から学べば、おそらくアフリカや中東、東欧などの国に思いをはせる事もできよう。もうひとつ。日本も、島国だ。日本人も、islanderだ。私はそれをうれしいと初めて思った。日本という島に来る人びとをあたたかく迎えたい、彼らがそうしてくれたように。そして、他の島国の人々についてもっと知りたい、同じislanderとして。島の人々が持っていたあのおおらかさとあたたかさが、日本人にもあると信じたい。

エクアドルの寄港地活動

（エクアドル共和国、メキシコ合衆国編）　福盛　里織

2月14日　ガラパゴス諸島へ接近。上陸できなかったが船からイルカやアザラシをみることができた。自然の迫力に感動。

16日　タヒチから11日目にしてやっと南米大陸到着。なぜか訪問先はスポーツジム。それも日本のものとはかなり違い、レジャー用のプールといったところか。久々の陸地を楽しんだ。道中、バスの窓からグラヤキルの町並みが見えたが、バラックがあたり一面にたちならんでいてちょっとさみしい風景だった。

17日　カトリック大学訪問。午前は歓迎式の後、大学内を自由に見て回った。学生に日本のことをインタビューされたり、こっちもエクアドルのことを聞いてみたりあっという間に時間が経ち、昼食。午後からは、文化交流会。代表が、和太鼓を披露し、他の国も伝統の踊りや歌等を披露した。現地の学生とも話ができ、有意義な一日だった。

18日　最終日。政治家暗殺という事件が起こったため、当初の予定が変更された。博物館や新聞社などを見学した後、ショッピングモールへ行った。エクアドルでの移動はすべてバトカーと共に行われた。

思い返してみるといろんな事が強烈に心にしみ込んでいる。特に印象に残っているのはどこまでも続いていた今にも壊れそうな家々。窓には頑丈そうな格子がしてあった。私はエクアドルのほんの一面しか見ることはできなかったので3日間の滞在だけでエクアドルという国をとらえることはできない。首都のキトをはじめ今回行かなかった場所を近いうちに訪問してみたい。

ナショナル プレゼンテーション(NPD)

土戸　千晶

船上で参加国のお国紹介の時間がもうけられていた。一時間という限られた中で、自国をあらゆる面から紹介。ビデオを利用したり、なんといってもラテン・島の国々は特に伝統的な踊りが見どころで、民族衣装はどれも驚くほど感心させられるものばかり。同じラテンの国の踊りでも随分違うもので、それぞれが固有の文化を存分に発揮していた。日本は、最後だったためにプレッシャーもかなりあったと思う。リハーサルにリハーサルを重ね、みんな一致団結して、絶対成功させよう!!という思いに燃えていた。日本舞踊に始まり、書道、柔道、剣道、三味線、各種踊り、空手、太鼓、などを披露。最後は"輪になって踊ろう"を歌って踊って締め、大好評だった。

●グループ活動について●

船上において基本的な単位はグループ。参加青年はA～Mのグループに分けられます。日本人参加青年8～10名、外国人青年12人（12カ国から1人ずつ）の約20人。事前研修からグループの人の結びつきは強く、船上でも多くの時間を一緒に過ごすことになりました。

私の所属していたグループでは、オーストラリア人のグループリーダー（ナショナルリーダー）を中心に、毎日夕方約一時間、Group Activityを行なっていました。具体的には、各国の紹介をし合いました。サルサを教えてくれたラテンの青年、自分のバンジージャンプのビデオを披露したNZの青年などなど。私達日本人は茶道、習字を教えました。外国人青年には、自分の名前を漢字にするのが大人気でした。NPDのような大きな行事とはまた違って、アットホームな異文化交流でした。お菓子を持ち合って団欒を楽しんだり、映画を観たりと楽しいひとときでした。グループは、今回のテーマであった"Celebrating Diversity"を最も考えさせてくれる場であったように思います。

船は学びの場でもある ～セミナー、ディスカッションについて～

山本　真司

世界船では様々な学びの場が用意されています。セミナー、ディスカッションは特に意義深いものです。異なる人種が共通の議題を話し合うことでお互いの理解が深まり、視野が広がるからです。

セミナーでは国連、環境問題などについて講師から講義がされ、Q&Aの後、参加者同士で意見交換。特に国連については、出港前に国連大を訪問し、本部から来られたハッジ氏の特別講演を聴いたこともあって非常に印象に残るものでした。講演では内戦、経済危機等の問題を国連でどう話し合って解決しているかを話され、話し合いの場としての国連の役割を再認識。意見交換では、他国での国連の捉え方を知ることができ、興味深かった。これはもっと違った見方で国連のことも勉強しないといけないな、と痛感しました。

ディスカッションでは未来、教育、文化の違いなどについて話し合いましたが、議題よりもその方法でかなり苦労をしました。まず、ネイティブスピーカーの英語が聞き取れないことに加え、話題の切り替えが早いこと、会話の切り出し方が分からないという問題に直面。人の話しの最中に発言する、何がなんでも自分の意見を言う、これらの態度に最初はかなり面食らいました。しかし、そのやり方を見習い、自分の意見がまとまったら、すぐに発言することを心掛けたことで少しはついていけるようになりました。要は習うより慣れろではないでしょうか。

最後にこのプログラムの中でたくさんのことを吸収でき、講師や共に学んだ多くの方に感謝の言葉を贈りたいと思います。

「太平洋の真ん中で」

第11回世界青年の船 参加青年
山田 貴子

世界船での国際交流その他の報告は他の人に譲り、私は、船ならではの自然体験について書いてみたいと思います。

まず、太陽の美しさ。日本で生活していても、ほとんど毎日見ているはずの太陽ですが、四方を海に囲まれた船で見る太陽は格別でした。水平線から昇る朝陽が見たくて早起きした事はもちろん、デッキに毛布を持ち出して朝まで過ごした事も何度かありました。うまくコミュニケーションがとれなくて悩んだ時、集団生活にちょっと疲れた時、いつも私を元気づけてくれたのは朝陽だったように思います。海に沈んでいく真っ赤に燃える夕陽もまた、素晴らしかったです。でも、日本が近づくにつれて、みんなとの別れが近づいてきたのを告げるかのように日没が早くなり、とても寂しい思いで見た夕陽もありました。

また、給油・給水のために立ち寄ったタヒチでは、出港の際、2重にかかった虹が私たちを見送ってくれました。

かわいい生物たちとの出逢いもたくさんありました。船長さんの粋な計らいで、ちょうどバレンタインデーの日にガラパゴス諸島の近くを通りました。しかもその日はホリデー。この日は1日中、デッキで過ごした人が多く（もちろん私もその1人でした）、私たちはイルカの大群に何度も遭遇しました。特に、朝陽に照らされながら飛び跳ねるイルカの大群には、みんな大歓声でした。サービス精神旺盛なイルカたちは、船と競争するのが大好きだそうで、その後も船の前や横を長い間飛び跳ねていました。アシカやトビウオにも出逢いました。なんと、カメを見たという人もいましたが、残念ながら私は見る事が出来ませんでした。さらに、ハワイの近くでは、クジラの潮吹きを間近で見る事が出来ました。

そして忘れてはならないのが満点の星空、そして流れ星。まさに空から星が降って来るかのごとく、たくさんの星を間近に見る事が出来ました。南十字星や天の川も、手を伸ばせば届きそうなところで、輝いていました。

世界中のたくさんの友人と、素晴らしい自然の中で過ごした2ヶ月。こんな素敵な経験をさせていただけた事を、心から感謝しています。いつの日か、親子3代で船の話が出来る事を願いつつ…（母は第6回日本青年海外派遣の参加者です）。

平成10年度事業報告会&平成11年度事業説明会

3月22日（祝）森ノ宮の青少年会館にて、平成10年度総務庁国際交流事業参加青年の事後報告会と11年度の事業説明会が開かれた。航空機派遣から、ドミニカ、デンマーク、中国の報告、東ア船のフレッシュな報告、続いて世界船は帰国して数日と興奮さめやらぬ中、ビデオを交えての報告があった。またIYEOの活動紹介例として、昨年ワーキングホリデーでニュージーランドを訪れ自然保護活動をしていた本橋桃子さん（第8回世界船）より、現地での活動報告、PYを訪れ助けてもらった話等、世界船のネットワークにより行動範囲、自分の視野が広がった　との体験談があった。

報告の後は、各事業ごとに別れ、お菓子をつまみながらのざっくばらんな質問会（当事者にとっては真剣そのもの）。
参加者はOBを含めて40人と多く、参加者のみならず、OBもフレッシュな体験談を聞いてエネルギーを補給したことでしょう。

平成11年度総会

4月23日　森ノ宮の青少年会館にて大阪IYEOの総会が開催されました。
まず、平成10年度の事業報告、会計報告がされ、11年度の事業計画について話し合いました。

今年は中国イヤーで、JICA青年招聘受入（6月）、総務庁事業の受入（11月）共に中国団です。また、例年秋に鶴見緑地公園で行われていた、ワンワールドフェスティバルは、2月に行われる予定です。皆様のご協力をお願いいたします。役員は昨年同様となります。

現在、大阪IYEOでは、事業収入につながるイベントを企画中です。何かよいアイデアがある方は、国分までお知らせください。
「澪標」の原稿も受付けています。あなたの身近な話題・ちょっとした体験を投稿してください。

E-mail：EZV07777@nifty.ne.jp　FAX 06-6877-7233　（国分）

リレーメッセージ

メビウスの輪と雑草

昭和40年中近東派遣
枚方市　北出篤夫

私がフランス、中近東地域諸国を訪れたのは昭和40年で、24歳の時でした。生まれてすぐに太平洋戦争が始まり物のなかった時代から、物の豊かな現在へと戦後と共に過ごしてきた私にとって、人生の折り返し点で海外に行けたことは、とりわけ印象に残ることであり、今に至るまで影響が続いています。特に最近は「平和」、「差別」といった言葉を頻繁に思い起こす様になったと感じています。そこで最近の一コマを紹介しましょう。

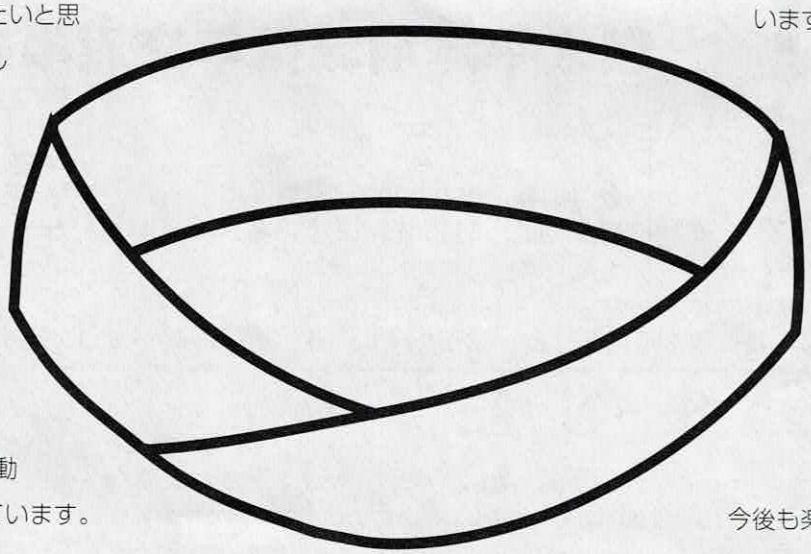
最近の5月にフランスのエセック経済商科大学院大学のアヴワーヌ・グザヴィエ君(19歳)が我が家に2週間ホームステイしました。フランスに行ったことがあるという経験が彼に一層の親近感をおぼえたことは勿論です。あっという間に過ぎた楽しい2週間でした。

私は彼に日本人は平和を望んでいるということだけを伝え、日本人、とりわけ自分の心情を実例をあげて説明しました。その実例というのが標題のメビウスの輪と雑草です。メビウスの輪は短冊の端と他の端を180度回転させてはり合わせたもので、その一方の面を表面だと思って辿ってゆくといつの間にか裏面に達しており、さらに辿っていくと又、表面に達するという単純なものだが不思議な輪です。一見悪いと見えることも辿っていくと善が見えてくるし、その逆のこともあるという日本人が何となく持っている心理とそこから生じる行動が世界平和に貢献できる気がすることを伝えました。

もうひとつの実例は雑草です。同じ場所に何種類もの違った草が生え、仲良く暮らしている姿は日頃眼にしている通りです。一見知恵が無いと思える草にどうしてその様な知恵が具わっているのでしょうか。他を拒まないという特性があるからでしょうか。立派な頭脳を持っていて知識も豊かな人間はもっと植物に教わる必要がありそうです。我々は自然の一員にすぎず自然に育まれ、生かされているという思想をもっと広めたいと思います。その方法として国際交流は不可欠ではないでしょうか。

中学校のカリキュラムに国際交流を組み込み、定年後の立派な経歴を持った人生の達人が指導者となって、海外へ行って砂漠の緑化や井戸掘りを手伝いながら、人生設計をするというのは如何でしょうか。熟年の方々にとっては自分を取り戻す機会を、世界にとっては差別を無くし、平和に貢献する手段になりませんか。

私にとって事後活動は出来る範囲、ペースで、長く続けることと思っています。今後も楽しみながら細々と続くことでしょう。



平成11年度 参加者選考会

4月6日、大阪府立青少年会館において平成11年度事業参加者の選考会が行われました。今年は例年より募集期間が1週間短かかったので、応募者も90人に満ちませんでした。

今年の応募者の傾向として、①派遣日数の短い事業、②参加費用の安価、と行った具合に、「育成交流事業」の応募者が約1／3をしめました。また、今年から応募資格が18歳からとなったので、未成年者の応募もありました。

当日は、私を含め6人の選考委員が、世界青年の船、東南アジア青年の船と日中・日韓、育成交流事業をそれぞれ2名づつで分担して選考しました。

この選考会の判定を受けて、大阪府1次合格者に対してのオリエンテーションを去る5月11日に行いました。これは、5月15・16日から毎週末に実施される東京での筆記・面接試験に対するもので、IYEOの活動や受験に対する心構え等をレクチャー、その後各事業ごとに分かれて質疑応答形式で行いました。各事業1次合格者は、先輩の言葉に一語一句食い入るように耳を傾けていました。

出来るならば、全員合格してほしいのですが……

会計報告

大阪IYEO　財務部　川上隆司

〈収入〉

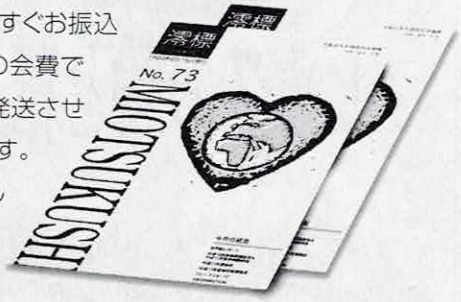
前年度繰越金	25,765
年会費	174,000
IYEO本部	75,000
雑収入	37,712
小計	312,477

〈支出〉

活動費	36,253
郵券	106,110
澪標印刷代	37,200
支部負担金	50,000
関西国際交流団体協議会会費	20,000
近畿ブロック大会祝金	5,000
滋賀県IYEO	5,000
名刺代	31,500
振込料	4,065
小計	295,128
次年度繰越金	17,349

会費納入をお願いしまーす！

今年度の会費納入は、もうお済みですか？「あっ!忘れてた!」という方は、同封の振込用紙ですぐお振込ください!!皆さんの会費でこのみおつくしを発送させていただいています。よろしくお願い申し上げます。



INFORMATION

IYEO近畿ブロック大会のお知らせ

日時:平成11年7月3日(土)～4日(日)
場所:「ホテルプラザ神戸」(六甲アイランド内)
参加費:全日程参加 13,000円(1泊2食付、ツイン希望は+3,000円)
早期申込割引(早割)
6月4日(金)までに申込入金をされた場合は
参加費を11,000円に割引します。
一部日程参加　6,500円(懇親会費込、宿泊なし)
(振込先) さくら銀行 武庫之荘支店 普通3491289
「IYEO近畿大会 代表 岡垣誠一」

参加申込:FAX、e-mail、または郵便にて6月18日(金)までに岡垣さんまで申し込んでください。
TEL 090-89303072(午後6時以降)　FAX 06-6877-7233
e-mail iyeo@eastmail.com

来年度のブロック大会は順番で行くと京都府開催予定ですが、京都府が近畿青年洋上大学の主催幹事県になるため、大阪と入れ替えることになりました。ゆえに来年度は大阪が当番県となります。

兵庫ＩＹＥＯが、かつてないアッと驚くプログラムを用意しています。青年の船をイメージした参加体験型ブロック大会をＫＯＢＥで開催！

日程

7月3日(土)
13:00　受付開始
13:30　クラブ活動(世代を超えた交流を)
15:00　セミナー(世界の文化にふれてみよう)
17:30　出港式(オープニングセミナー)
18:00　パーティ(いろいろな人との交流、日本文化紹介)

7月4日(日)
6:30　朝のつどい
7:00　朝食
9:30　お国自慢ファッションショー
(ファッションで世界一周、あなたもモデルです)
10:30　帰港式(ラストセレモニー)

11:00　オプショナルツアー
A 明石海峡コース
舞子タワーより明石海峡大橋を見学
B 神戸下町散策&酒蔵コース
震災から立ち直った神戸の下町を散策します

募集！ 環太平洋地域青年交流事業派遣団員

10月26日から11月9日までの15日間、日本の若者が環太平洋地域へ行き、ホームステイや青年との交流・視察見学等を通して、相互理解や友好を深める事業の団員を募集しています。

派遣地域　1班:アメリカ　2班:マレイシア、オーストラリア
3班:タイ、ニュージーランド
参加費　250,000円
募集期間　6月30日まで(30名)
主催　(財)大阪府青少年活動財団

詳細はユースサービス大阪
「環太平洋地域青年交流事業」係
TEL(06)6942-5146

●平成11年度派遣事業の壮行会を8月20日(金)に予定しています。また詳細が決まり次第お知らせします●

青春後記

ちょうど40歳(ほんとは41ですが)という若くもなく、年寄りでもないという人生の折り返し地点に来て、青少年の未来を憂い、高齢者の行く末を案じながら、毎日の仕事と生活に追われている自分はいったいこれから何をしてどう生きていけばいいのだろう…と思い悩む今日この頃。やらなければいけないことはたくさんあるのだけれど、本当にしたいこと本当にするべきことは何だろうと考えるとわからなくなってしまいます。小さなことでも、きっと私がするべきことを神様は用意してくださっているのだと思うのです。私もあと何年生きられるか…。生きているうちにしなければならないことを見つけ、そして実行しなければと最近特につよく感じるのです。

OH! NO!